

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 1F)

事業所番号	0670400969		
法人名	株式会社 ジェイパック		
事業所名	グループホームもも太郎さん 米沢		
所在地	山形県米沢市通町5丁目3-46		
自己評価作成日	令和 3 年 2 月 9 日	開設年月日	平成 16 年 2 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念の「自由」「家族の絆」を掲げ、開設17年目となります。家庭的な雰囲気をモットーに入居者様が安心して、普通の暮らしが送れるような、取り組みを出来るように支援を努めて行きたいと思っております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 3 年 3 月 2 日	評価結果決定日	令和 3 年 3 月 25 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

住宅街の静かな環境のもと、利用者はホールから遠くに見える山並に四季の移ろいを感じながらゆったりと過ごし、今期は新型コロナウイルス感染症対策でほとんどのことが思うように出来ない状況にあり、管理者と職員は利用者や家族の気持ちを大切に丁寧に対応し、利用者が家庭的な雰囲気の中で安心して穏やかに暮らせるよう支援しています。比較的高年齢の方が多く介護度も高いことから災害発生時の対応が危ぶまれ、様々な災害を想定して迅速な避難を重点により実践的な訓練を行って安全確保に努めるなど、安心と信頼に向けて取り組んでいる事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~54で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本社により「理念」「接遇スローガン」に基に、日々の生活のスローガンに近づけるように、心掛けています。	法人の理念の下に事業所理念を掲げ、利用者の気持ちを尊重し安心して生活できるように支援している。研修等を通じて日々の行動を確認し共有して理念を実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事には体調に配慮し参加するようにしています。6月～10月までの朝の町内清掃には入居者様の体調を見ながら職員と一緒に参加しています。	コロナ禍で全ての活動を自粛せざるを得ない状況の中で地域の一員として生活し、職員と一緒に清掃活動を手伝ったり回覧板等で必要な情報を得るなど、地域に根ざし開かれた事業所として活動している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症については理解されているが、グループホームもも太郎さんの施設としての理解はされてきている。また、山新の方や町内の方など見守り隊としているので、「何かあったら連絡ください。」という協力体制は取れています。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しています。町内会長、民生委員、市職員、入居者様、御家族様からの意見要望を伺い、施設内で活用しよいサービスが出来るようにしています。	運営推進会議はコロナ禍により書面による報告に変えて実施し、理解と支援を得ている。報告書は丁寧な作りで内容も分かり易く、関係者と信頼関係を築いて意見などをもらい業務に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市より介護相談員の訪問を受け入れしております。入居者様の様子を見て頂き、率直な意見を頂き生活に活かしていけるよう努力しております。	運営推進会議の実施報告書を提出し、事業所の実情やケアサービスの取り組みに理解を得ている。生活保護者の対応なども含めて行政側と連携を図り利用者を主体にした支援を行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	玄関の施錠は夜間帯だけで、日中はドアのチャイムを設置し、外に行かれたのが解るようにしていますが自由に動けるように安全面には気を付けております。又、全職員が身体拘束廃止の指針に基づき、理解に努めています。	「身体拘束適正化の推進」を基に指針を整備し、委員会の開催や職員への周知徹底と定期的な研修の実施などが網羅されている。職員は不適切なケアなど身体拘束の内容と弊害について認識し、利用者の安全を確保しつつ自由に抑圧感のない暮らしを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内に教育委員会を設置しており、委員を中心とした勉強会を行い周知徹底しております。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内に成年後見制度を活用している入居様もあり、理解を深めることが出来ています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や解約時は、ご家族様が納得して頂けるような説明を行っております。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	担当職員を付け。ご家族様が面会時の時や、意見箱などを設置し要望をお聞きし、運営推進会議などに反映させております。	コロナ禍の中で面会を自粛してもらっており、利用者・家族の不安を払拭する為にまめに近況報告を行い、電話で本人と家族の声を繋げたり常に家族と連携して支援している。アンケートなども行い意見や要望をもらってケアに活かし信頼関係を築いている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に、職員の意見を聞いたり、また、目安箱設置し良い環境作りが出来よう反映させています。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがいのある職場環境に努め、毎月の本社会議で報告しております。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月、職員会議で30分間の勉強会を行っています。又、外部研修に積極的に参加し、職員間で情報共有しております。	「質の向上とケアの平準化」を目標に研修を重ね、向上心を持って取り組むよう指導している。ケア技術と合わせて個々のメンタル面にも配慮し、研修終了後に感想文を提出して人事評価にも繋がっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	米沢市や市内各病院主催の研修に参加し、意見交換などを行いサービス提供の質の向上に繋がっています。	各種グループホーム研修会などの様々な研修に参加して情報交換を行っていたが、コロナ禍の中でほとんどが中止になっている。業務に関する内容や支援方法など他事業所の友人とも連絡を取り合いサービスの質向上に励んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始前に事前面接を行い、ご本人様の思いや要望をお聞きし、不安を軽減できるように、コミュニケーションや会話を通し、そのことをケアプランに反映出来るよう努めています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接(アセスメント)の段階でご家族様のサービス利用に対する不安や要望をお聞きし、より良い関係の中でサービスが提供できるように努めています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接(アセスメント)やその後の関わりを通じてニーズを見極め、過不足の無いサービス提供に努めています。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の生活意欲を引き出す為に、ご本人様の出来る事、したい事を尊重し、家事などご本人様と職員がお互いに協力し合える体制づくりに努めています。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	「家族の絆」を理念とし、面会時や電話、ニュースターなどでご家族様との密な情報の交換などで共有を図っています。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方々との交流を引き続きできるよう、気軽に足を運んで頂ける環境を整えたり、働きかけを行っております。また、馴染みの場所へドライブ行ったり、昔の話を聴いたりしております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が日々楽しく生活して頂ける様に、職員が様子を見ながら共に支え合える関係が作れるように努めています。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も御本人様や御家族様から相談があればその都度対応し必要に応じて解約後のフォローにも対応しております。また、契約終了後も御様子について担当マネージャーから情報を頂く事もあります。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前からの生活歴や趣味嗜好などをご本人様やご家族様からお聴きし、これまでの生活を尊重した生活環境づくりに努めています。また、それらの情報を職員間で共有しております。		一人ひとりの思いや暮らし方が違う中で、比較的介護度の高い利用者が多く帰宅願望の強い方もいて、傍に寄り添って話を聞いたり毎日の生活の中から思いを把握している。意思疎通が困難な方でも丁寧に対応ししぐさや表情から思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様の面会時等において、これまでの生活様式や環境などを意識して聴き取るように努めています。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様一人ひとりが無理なく生活できるよう、その方の生活リズムを把握し、自由に暮らして頂ける様に努め、日々の生活を通じて、心身状態の把握に努めております。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のモニタリングと、3ヶ月おきのカンファレンスを行い、その結果をもって生活支援計画を更新しております。		介護計画は介護日誌等で現状を確認し、職員の意見を踏まえて具体的に必要とする支援を盛り込んでいる。利用者・家族等の思いや意向を尊重し、健康を維持して穏やかに生活できるように利用者主体の計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は生活支援計画を基に記入し、日々の変化や気付いた点などを記入して職員間で情報を共有しております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	6月～10月の第一日曜日に入居者様の体調を考慮し、町内清掃に参加しております。ご本人様、地域の方との作業での触れ合い、豊かな気持ちで生活できるようにしています。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	全入居者様、月1回訪問診療に来て頂いています。他科受診は御家族様や職員が通院支援を行っています。急変時にはかかりつけ医院と連携し指示を仰ぎ、適切な医療を受けるようにしています。	毎月往診があり緊急時に24時間対応可能な協力医をかかりつけ医にしている。受診の際は職員が日頃の様子を伝えて医師と連携を図ると共に、薬の変更や状態に変化があった時は家族等に速やかに報告し、職員間でも共有して健康管理に努めている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員がいないので、介護職員が日々の様子を把握し、気付きをもって確認し、変調時にはかかりつけ医院に報告し指示を仰ぐようにしています。			
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は2日に1回面会に赴き、その都度状態を聞き状況把握に努めています。退院に向けての病院関係者やご家族様とのカンファレンスを行っています。お歳暮やお年始などの挨拶でも関係づくりを努めています。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合はかかりつけ医院と御家族様とも十分な話し合いを持ち、厳しい部分や穏やかな部分もある中で、当施設が出来る範囲でやれることを説明し理解を得ています。	嚥下機能が低下するなど重度化が進んできた場合は、早い段階で家族等と話し合いの場を設け意向の確認を継続して行いながら、主治医の指示のもと今後の方針を共有し、出来る限り穏やかに過ごしてもらえるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
					次のステップに向けて期待したい内容	
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所で教育委員会を設置し、ヒヤリハットや事故防止の対策をしています。急変時や事故発生時についてのマニュアルを作成し、対応ができる様になっています。		/	
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもとで年1回避難訓練を実施しています。また、事業所だけで2ヶ月に1回火災以外の緊急災害についての訓練を実施し安全に避難できるように取り組んでいます。災害マニュアルを作成しており、職員間で共有しております。		今期は7月と1月、火元を変えての火災時避難訓練を実施している。介護度が高い利用者が多いことや2階からの避難など厳しい現状をふまえて避難誘導を最優先に行っている。また非常時の持ち出し品(利用者情報も含む)や備蓄などもリストを作成して定期的に点検し災害時に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーの確保にも努めております。丁寧な言葉掛けやその方に合った声掛けをし羞恥心、自尊心にも配慮をしております。		接遇スローガンに沿って言葉にいたわりを持ち、尊厳・感謝の気持ちを忘れないように心掛けている。傍に寄り添い傾聴に努め、些細な変化も見逃さないよう気づきを持ってケアにあたり、一人ひとりに合わせた個別支援に取り組んでいる。	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活が和やかで、ゆったりとした空間になるよう心掛け入居者様が御自分の思いや希望を自由に言葉にでき、御自分で決められるよう支援しております。		/	
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様御一人ひとりのペースに合わせた支援を行い、日々の生活を楽しく過ごして頂ける様心がけています。		/	
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人の好みを尊重し、共に考え、皆様が季節に合った衣類になるよう心掛けています。2ヶ月に1回理美容店の訪問をお願いし、身だしなみに気を付けております。		/	
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員と楽しく会話しながら、調理する食材の下準備、テーブル拭き、お茶出し、食後の片づけなど各入居者様の出来る事に合わせてお願いして行って頂いております。		美味しい食事は皆を元気にする源と捉え、昔から食べ慣れた家庭料理を中心に栄養面や見た目も考慮しながら手作りで提供している。毎月の行事に合わせて特別メニューも振舞われ季節を感じてもらい、皆での食事を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の摂取量、水分量を把握し確認しながら、少なければ声掛けをしたり、苦手な食材があれば代替等を準備し提供しております。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアが確実に出来る様、洗面所までの移動、歯磨きへの支援、声掛け、働き掛けを行っています。義歯の方についても夜間の入れ歯洗浄剤による洗浄を行い清潔を保っています。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者様の心身状態に合わせて、定時でのトイレ誘導、声掛けを行っております。ご自身でトイレに行かれる入居者様については排泄後に確認を行っております。声掛けの際には羞恥心に配慮し、耳元でゆっくり話すようにしております。	重度の方でも立位が可能な限りトイレでの排泄を支援している。訴えのある方や起床時・食事の前後など定時に誘導して全面介助を行い、安心に繋げている。失敗時にはさりげない対応を心掛け、羞恥心や自尊心に配慮している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の献立にはできるだけ食物繊維を取り入れた食材を使用するよう工夫しております。また、主治医との相談、協力を頂いております。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は毎日提供しておりますが、体調を考慮しながら、一人一人の好みに合わせた温度などで、気持ちよく入浴して頂ける様に配慮し、見守りや声掛けなどで安全に入浴できるよう支援しています。	毎日でも入浴が可能で、湯も毎回変えて気持ちよく入っている。バイタル測定で体調を確認し、長風呂や転倒に気を付けて介助にあたり、歌や昔話も聞かれる楽しい時間となっている。全身観察や会話で得た情報は職員間で共有してケアに活かしている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を知り、休息したい時には安心して休息できるように支援しております。夜間は居室の温度や湿度確認、就寝状況の確認をして気持ちよく眠れるように配慮しております。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者様全員の薬を把握し、服薬前には日付と名前をご本人様の前で読み上げ、服薬後は薬袋を一週間保管しております。また、誤薬防止の為に朝の薬袋には赤線、夕の薬袋には青線を引き誤認防止に努めております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	誕生日及び毎月の行事を通じて、気分転換を図っております。入居者個々の力やペースに応じて、家事や、体操・塗り絵等のレクリエーションに参加して頂き、楽しみを持ち、役割意識を持って過ごして頂いています。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	四季を感じられるよう、近隣を散歩したり、花見・ツツジ・新緑・紅葉ドライブに出掛けたりしております。	今期は新型コロナウイルス感染症予防により計画していた外出行事は全て中止となっている。ホールの窓から目の前の公園の桜や吾妻連峰の山並みを眺め、山菜料理を堪能して季節を感じてもらっている。傍に寄り添い、皆で会話を楽しむ場面も増え、自粛生活でより信頼関係が深まっている。		
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族に連絡し、御希望の物、必要なものがあれば、相談し、上立替にて購入させて頂いております。			
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様の思いや希望にて、御自宅や御家族様に電話を取り次いでおります。また、御自身で携帯電話を所持している入居者様もおられます。			
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様、装飾も季節毎変え、温度や湿度管理に気を使い、過ごしやすいように工夫をしております。清潔に過ごせる環境づくりに、場所によって入居者様も参加して頂いております。	皆が集まるホールは、季節の行事に合わせてだんご木や七夕飾りなどを施し、窓から見える公園の桜や花火も皆の目を楽しませている。また加湿器や空気清浄機の設置、定期的な換気で感染症対策を強化し、動線の確保をして安心・安全な環境作りに努めている。		
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様複数で一緒に過ごしたり、お一人でゆったりと過ごしたり、皆で体操や歌番組・DVDを観たり、思い思いの過ごし方ができる空間づくりに努めております。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前から過ごしてきた環境に近づける為、仏壇やテーブル、家具などはなじみの物を持って来て頂くよう入居時にお話しております。また、遠方の御家族様が面会に来て泊まれるよう配慮しております。		利用者が自宅と同じように過ごせるように馴染みの物を持参してもらい、落ち着いて暮らせる環境を整えている。転倒リスクに配慮して人感センサーやマットを使用している方もおり、夜間はこまめな巡視で安心に繋げている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、廊下、トイレには手すりが付いており、御自分で安全に移動ができる方には、居室やトイレがわかりやすいように目印をつけ、御自分で移動できるようにしております。		/	